

科学技術・学術審議会総会（第73回）議事録

1. 日 時：令和6年10月23日（水）14：03～15：46
2. 場 所：Web 会議（科学技術・学術審議会運営規則第8条第1項第2号及び第3号に基づく非公開）
3. 議 題：1. 国際卓越研究大学の認定について（意見の聴取）
4. 出席者：

（委員）

大野会長、上田会長代理、相澤委員、五十嵐委員、小川委員、勝委員、金井委員、狩野委員、菅野委員、栗原委員、佐伯委員、佐藤委員、白波瀬委員、鷹野委員、高橋委員、田中委員、寺井委員、仲委員、原田委員、日野委員、観山委員、明和委員、村岡委員、村山委員、門間委員

（文部科学省）

西條大臣官房長、伊藤高等教育局長、井上科学技術・学術政策局長、塩見研究振興局長、堀内研究開発局長、坂本サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官、高谷大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）、先崎科学技術・学術総括官、松浦大臣官房審議官（研究振興局及び高等教育政策連携担当）、井上国立大学法人支援課長、伊藤科学技術・学術戦略官（制度改革・調査担当）、柳澤大学研究基盤整備課長、小川政策課企画官、小川大学研究力強化室長、ほか関係官

5. 議事内容

本議題について文部科学省から資料に基づく説明があり、科学技術・学術審議会運営規則第7条に基づき本議題に直接の利害関係を有する委員（大野会長、高橋委員、日野委員）を除いた出席委員により審議を行った結果、当審議会として東北大学を国際卓越研究大学に認定することについて適当と認める旨の答申を出すことを議決した。

審議における主な意見は、別紙のとおり。

審議会に置ける主な意見

<①人文・社会科学系も含む研究力向上・異分野融合>

- 人文社会科学の価値創造について、研究成果の社会実装には技術だけでなく人文社会科学の知恵が必要。
- コアリサーチクラスターに位置づけられている災害科学は非常に特色ある取組。環境地球科学のような関連性のある取組と融合させながら、大きな研究成果を見出してほしい。KPIの数値を追い求めるだけでなく、東北大学として世界をリードしていく研究成果を内容面含めて打ち出すことを期待。
- 科学技術そのものに対する洞察のためには、人文社会科学がこれまで蓄積してきた厚みのある総合知を融合することに意義がある。研究者の教育システムやキャリアパスにおける人文社会科学との意図的な接点を作る仕組みも重要。
- 不確かな時代においては、人文社会科学が持つ学術的価値と実学が組み合わさることで日本ならではの学術を創出、発展させていくことが国際卓越としては重要。答えのない難しい社会課題が世界で山積する今、ELSI の観点を含め、人類が今後どう生きていくかを思考し、研究者と市民がともに考える都市のシンボルとなることに期待。
- 大学の各構成員が創造性をよりよく発揮できる環境の整備が重要。この意味で、研究時間の確保について支援人材と PI の数のバランスの中でどのように確保するかなどを含め、工夫されたい。
- 人文社会科学について、東北大は自然科学に注力した大学という印象があったが、人文社会科学の力を融合させた「新たな知」を作ることを期待。
- 東北大学が今後力を入れていく分野の中で、災害科学、地球科学、環境が挙げられている。国際的、世界的な水準での研究力強化に加え、アジアパースペクティブでの東北大学における研究、人材育成の展開、成果を社会につないでいくことを通じ、これからの時代に必要とされる発信をし、温暖化、生物多様性、アジアモンスーン地域特有の気象災害に関する問題についても、中心的な役割を担うことを期待。
- 人文社会科学の価値創造について、日本の特徴や研究システムを世界に展開することを期待。
- 教員の視点からは、大学改革を行うと、研究時間の確保が不安になるので、しっかり進めていただき、人文社会系を含めて様々な方面で研究時間の確保をはじめ、自由な発想に基づく研究を進めることを期待。
- 学生の教育も重要で、研究力の強化が本事業の主眼だが、研究、教育の両輪をどう両立させていくかも考えることが必要。
- 東北大が研究を推進していく中で、地域に根付いた農学や歴史的な部分も取り入れ連携を進めることが重要。
- 教育と研究が両輪となり成果が出ることを目標に、全員が一体となって進んでいくことが必要。
- 多様性について、女性だけでなく、様々な分野の方や外国人、スタートアップ含めた多様な人材の活用を進めていくことが必要。
- 成果を追い求めるだけでなく、ウェルビーイングの視点を念頭に、やっている人たちが満足感や達成感を感じられる取組を示していくことが重要。

＜②研究環境の整備・充実＞

- 外国人比率、女性研究者比率などのダイバーシティは重要。国際的な対応ができるスタッフ、研究費、生活支援制度の他、地域の国際的な研究者、女性が研究するための生活基盤の強化が重要。また、外国人向けの英語での生活情報（市役所、学校）の提供やインターナショナルスクールにおいて英語で教育を行う環境整備、地域に新たにきた際の手続きの支援も大事。
- 国際的にも、所長やプロボストなどで国際人が十分に入ってくるためのシステムが必要。仙台という地方都市に外国人がどれくらい入ってくるかを考えると、全体のサポートも必要。
- トップの人材が集まるだけでなくトップの人材が輩出されるような環境を作ることが重要。
- 仕組みを作り込んでいるが、それがマネージメント的な負担とならないように学生や教員が採択されてよかったと思える運用をし、この制度が日本の大学に根付き日本の大学を強くし、社会に役立っていくことを期待。

＜③研究力の指標・評価・モニタリング＞

- 文系については、発表論文の形態含め高度な研究が国際的な評価に必ずしもつながらない点もあるため、この点も検討が必要。
- 国際的に卓越した研究実績に Top10%論文の指標があるが、研究のリーダーシップが中国に移るといふ国際的な変化がある。計画の目標年度が 25 年後だが、この間にも世界の変化が想定される中で、長期的な変化に対して研究力をどのようにとらえていくのか考える必要。
- 厳格な結果責任を求めることについて、国際卓越の取組は学術界や産業界のみならず国民からも注目されており、途中で多少失速したとしても、軌道修正ができる仕組みが重要。
- 成果を出すことは重要だが、数値目標の達成に疲弊してしまい、何のための国際卓越研究大学かとならないよう、研究者の方々の満足度が上がり、研究を目指す人が増えるような効果が重要。
- 人文社会科学について、認定申請の実績や基準は数値化されたものになっており、KPI や基準として表れない部分がある。人文社会科学の学問や総合知の重要性に関し、どのように実績を評価するのも課題であり、こうした試みを通じて評価の在り方にも知見が得られることを期待。
- 研究力を上げていくことについて論文だけでは評価できない部分があり、それをどのように評価していくのか。東北大学では新しい評価の基準や評価法を作っていくと思うが、チームとしての研究力がどうあるべきなのか、どの場合に伸びるのかといった点も検討していく、若い方を含めた研究力が上がることを期待。
- 国際的に卓越した研究の実績について、論文の評価方式のみでは日本の良さの評価が難しくなっていくので、数値化という意味で評価基準の検討も必要。
- 東北大が取組を進める中で、様々な課題が出てくると思うので、こうした点をフィードバックして改め、最終的に日本が世界に誇れる大学を作る方向性に持っていければよく、制度的な柔軟性も重要。
- 計画については、時刻々と事情が変わることもあり、こうした方が良い、ここが足りないという点も当然出てくるので、実効して見えてくる課題も踏まえ柔軟性をもって取り組むことが必要。

- 大学は新しいことを未来の社会のために試し、思い通りでない展開をより良い方向に活用する場であり、それにより人材も育つ。10 年間を通じて何を成し遂げるのかは、刻々と再設定することが必要。

<④人材育成>

- 国際卓越研究大学に選ばれると研究ネットワークの中心になるので、研究者のポジションの拡充に加え、博士人材育成についても力を入れる必要。
- 国際社会で自信をもって活躍していくことが重要であり、失敗を恐れず、KPI に疲れないでやっていけるよう、きめ細かなサポートも必要。

<⑤ガバナンス体制>

- 改正前の国立大学法人法に位置付けられている会議体との機能分担を明確にしておく必要。会議体が多くなるので、業務分掌権限が錯綜しないよう、迅速で果敢な意思決定がなされることを期待。
- スキルマトリックス含めて民間企業のガバナンスになぞらえた形で非常に効率的で力強い組織と感じた。また、CFO も民間の人材で、これまでの国立大学とは一味違う体制だと感じた。強みもある一方、スタートアップファイナンス等民間金融機関との連携などもあるので、リスク管理についても注力する必要。
- プロボストについてうまく機能することを期待。仕組みからどのように運用し、展開していくのかは既存の大学組織の中で難しさもあるが、人文系学部に対する関与を含めて力を発揮することを期待。

<⑥人事・給与システム>

- 流動的な給与体制として、円安の影響も加味したシステムの構築が、目標の達成に向けて重要。
- 国際卓越研究大学には様々なイメージがあると思うが、日本の大学であるだけでなく、国際的によく見える大学であるために、歴史ある国立大学の良い部分と、変えなければいけない部分へのチャレンジについて人事体制の確立が必要。
- 国際市場で戦うために、誰をとってくるのか、誰に来てもらうか、といった、他大学との競争を考慮したシステムが重要。その際の柔軟かつ裁量できる給与体系の整備が求められ、優秀な人材の獲得、輩出しても戻ってこられるような体制が必要。

<⑦その他>

- 国際基準であるよりも国際基準を作る大学になることを期待。東北大は女性初研究者を輩出しており、女性学生の入学率も高い大学であるので、そうした点をアピールすることも重要。
- デジタル技術の活用レベルを向上していくことも重要。日本が遅れている AI を含むデジタル技術の活用が、東北大の取組を通じて進んでいくことを期待。

以上